

1 自己評価及び外部評価票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070201542		
法人名	医療法人祥誠会 梓川診療所		
事業所名	グループホームあずさ小町		
所在地	長野県松本市梓川梓2344番地1		
自己評価作成日	令和元年8月25日	評価結果市町村受理日	令和2年2月3日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/20/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan_j=true&JigvosvoCd=2070201542-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構 長野県事務所
所在地	長野県飯田市上郷別府3307-5
訪問調査日	令和元年9月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○ 季節の行事、誕生日会、外出、外食、イベント等の年間行事計画を立てて、多くの利用者が参加し、楽しみを持って生活できるように支援しています。</p> <p>○ 認知症カフェ「こまちカフェ」を開催し、認知症になっても安心して暮らせるために、地域の方や認知症に関わる人に気軽に参加してもらい、お菓子やコーヒー等を飲みながら楽しく過ごしていただいて、や情報交換の場になるように努力しています。</p> <p>○ 終末期では、ご家族や医療関係の職員と連携し、ご本人やご家族の希望を取り入れたケアを行います。また、ご家族と話し合い、「百歳の誕生日」を皆でお祝いしました。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>○ 「一人ひとりが、人生の最終章にふさわしい生き方ができる施設を目指す」と、理念としてうたっているように、ターミナルケアのマニュアルに沿って利用者に対応し、医師や看護師、リハビリ担当の職員等の関係者と連携して、手厚くて温かな看取りを行っている。</p> <p>○ 「地域の交流の場として開かれた施設を目指します」と、行動方針にうたっているように、オレンジプランの実践として、認知症カフェを開いて地域の方々の参加を募り、健康体操や合唱をしたりして利用者と一緒に楽しみ、認知症理解に努めている。</p> <p>○ 「一人ひとりの思いを大切に、その人らしく生きていけるよう心をこめて支援します」と、行動方針にうたっているように、職員は「ひもときシート」を活用して、利用者中心の思考に立った課題解決を目指し、努力している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名()		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23, 24, 25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9, 10, 19)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18, 38)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2, 20)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36, 37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目: 30, 31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誰もが集まるエントランスホールに理念を掲示し、毎朝の朝礼時に皆で音読し、日々の仕事に繋げています。	理念を基に職員は利用者一人ひとりの個性や介護のレベルに合わせた活動を行い、人生の最終章にふさわしい生活ができるように支援している。また、地域との交流の事業計画を立て、年間行事計画に活かしている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩中に、地域の方と挨拶を交わしたり、梓川西保育園や他のグループホームの行事に参加したりして、交流しています。地域のボランティアの方々の協力を得て、外出や行事への参加を支援しています。	保育園の運動会に参加したり、他のグループホームの音楽会では合唱したりして交流している。認知症カフェ「こまちカフェ」を開き、地域の方々やボランティアの方々との交流の輪を広げている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「こまちカフェ」を開催し、地域の方々に集まってもらい、情報交換したり、お茶を飲みながら楽しく過ごしていただいたりして、認知症についての理解を広げています。また、中学校の家庭科で、ご利用者の食事の摂り方についての体験学習を行いました。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、実際のサービスの取り組みを話し合い、その内容を職員のミーティングで採り上げてサービスの向上に活かしています。	今年度は、包括支援センターの職員、民生委員、他のグループホームの職員、家族代表以外に利用者に参加してもらい、話し合いを行った。毎回、「こまちカフェ」の実践、終末期のケアの取り組み等、テーマを変えて様々な意見を聞き、サービス向上に繋げている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では、包括支援センターの職員や民生委員に参加していただき、グループホームの取り組みを伝えています。また、民生委員にはグループホームの行事や「こまちカフェ」に協力していただいています。	運営推進委員に「小町だより」を配布して、情報交換を密にしている。包括支援センターの職員と連携してオレンジプランを推進していくための認知症カフェの取り組み、オレンジメイトの活動に積極的に参加している。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年、身体拘束の勉強会を行っています。グループホーム内では、玄関などの施錠はせず、常に開いています。身体拘束はしないで、付き添ったり、見守ったりして安全を確保しています。	身体拘束をしないケアについての勉強会や研修会に参加し、職員のミーティングで身体拘束廃止について周知、徹底を図っている。弄便の利用者については、本人、家族に理由を説明して便調整を行うことにより、必要以上の拘束はしないように支援している。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や勉強会を通して、全職員が学ぶ機会を多く設けています。職員のミーティングで問題点を話し合い、防止に努めています。	

グループホーム あずさ小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の研修会に参加して、権利擁護についての理解を深めています。相談があれば活用する予定です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	問い合わせや入居希望者の方にはグループホームに来て見学していただき、説明するとともに、入居に関する悩み、ご家族の希望をお聞きしています。契約時に十分な説明を行っているため、納得されています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族との対話を大切にし、話し合う機会を持つよう「意見箱」を設置しています。面会時や家族会の時、運営推進会議の時にご利用者やご家族の意見、要望を聞き、職員のミーティングで話し合い、支援に繋がっています。	面会時には、利用者の日頃の様子を伝え、また、家族の意見や要望を聞いて、職員のミーティングでその支援について話し合っている。行事の後の食事会や家族会のおりには、職員と話し合う機会を多く取り、利用者や家族の意見や要望を聞き、運営に反映できるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員のミーティングで意見を聞き、それらが反映できるように、管理者は法人内の各部署の責任者会議に参加し、全体の問題として話し合うようにしています。	月1回の職員のミーティングでは、運営やケアについて積極的な話し合いが行われている。そして、朝、遅番、夕の1日3回の打ち合わせを通して職員間の共通理解を図っている。また、日頃感じている運営に関する意見や提案などは個別に職員に聞いている。法人内では全職員は各種委員会に参加し、運営について関わっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全員への「アンケート調査」や相談役との「面談」を通して、職場環境の改善を行っています。働きやすい職場環境のための講習会や勉強会も行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修会や内部の勉強会には、なるべく多くの職員が参加できるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとの合同音楽会などの行事を通して交流する機会を作っています。また、お互いの運営推進会議に出席しています。市のオレンジメイトの活動の取り組みを通して同業者と交流し、サービスの向上に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談やグループホームの見学で、ご家族の要望や希望を採り入れて、ご利用者が安心して安全な生活を送っていただけるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談やグループホームの見学で、ご家族の要望や困難な状況を伺い、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の望むサービスの提供を行うとともに、ご家族の支援もしていきます。また、ご本人の心身の状況を見ながらサービスの計画を立てています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人に役割を持っていただき、職員が見守り、寄り添いながら、ご利用者同士が協力し合うように支援しています。また、ご利用者が家事仕事、趣味や得意とされることなどで楽しみを持って暮らすことができる関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に季節の行事の参加、「こまちカフェ」の参加、ご本人やご家族等が希望される外出支援や「百歳の誕生日」の実施などを通して、ご家族との絆を重視しています。また、ご家族が講師となった「絵手紙教室」も実施し、ご家族がともに楽しみながら参加していただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族等の面会がゆったりとくつろげる時間となるよう努めています。また、ご家族との外出の機会を設けています。	ご家族や友人の訪問を大切にして、ゆっくりと会話ができるように支援しています。ご本人の生家や地区をご家族とめぐって昔話をしたり、親戚の葬儀に参列したりする支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の家事仕事や作業を、協力して行っていただいたり、集団レクリエーションや誕生日会、昼食作りを通して、ご利用者同士が関わり合い、触れ合ってより良い関係が作れるように支援しています。		

グループホーム あずさ小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、ご家族から相談があれば支援を継続しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人とゆっくりと話ができる時間を作り、今の思いや意向をお聞きし、それらを「個別記録」に記入し、カンファレンスを行い、本人本位に検討しています。	日々の会話の中から思いや希望、意向を聞き、「個別記録」に記録し、それを基にカンファレンスを行って、利用者本位に検討し、介護計画に繋げている。困難な課題については、「ひもときシート」を活用して、本人中心の思考に立った課題解決を目指している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者一人ひとりの生活歴、馴染みの暮らし方、サービス利用の経過等についての情報収集を行い、職員間で共有し、その人らしい暮らしができるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者一人ひとりの様子を観察し、気づきや現状の把握に努め、各自のペースに合わせた生活ができるようにしています。リハビリの職員との連携も行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者一人ひとりの課題やケアについて、ご本人の言葉や意思を尊重し、ミーティングやカンファレンスを通して職員が意見を出し合い、介護計画を作成しています。家族や担当医師・看護師・リハビリ担当職員ともに相談し、話し合っ、現状を踏まえた介護計画を作成しています。	利用者がより良く暮らすため、ご本人や家族の意向を聞き、職員のミーティングでケアのあり方について意見交換をしています。ミーティングでは、担当医師や看護師・リハビリ担当職員などの関係者と話し合い、それらの意見やアイデアを採り入れて介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「個別記録」に日々の様子やケアの実践、気づきや工夫を記入し、職員間で共有するとともに、口頭でも伝え実践に繋がっています。ミーティングやカンファレンスを行って介護計画の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一法人の診療所や老人ホーム、リハビリテーションと連携し、ご本人が希望するサービスが利用できるようにしています。また、終末期の「百歳の誕生日」や結婚式の「お祝いメッセージ」等ご家族の希望を採り入れた支援を行っています。		

グループホーム あずさ小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方々に「食事会」や「焼き肉会」に参加していただいたり、ご家族が講師となって「絵手紙教室」を開いていただいたりして、ご利用者は楽しく過ごしています。また、保育園児との交流も楽しんでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望を大切に、24時間体制で、安心した生活ができるように支援しています。また、ご家族の希望で、これまでのかかりつけ医を選択できるように支援しています。	本人や家族が希望し、納得するかかりつけ医に受診できるようにしている。同一法人の診療所が隣接しており、その担当医師が往診している。毎日バイタルチェックを行い、利用者の身体の異常時には、すぐかかりつけ医の受診が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調不良時や日々の身体変化の気づきや情報を、訪問看護師と相談し、同一法人の診療所の担当医師につなげています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した医療機関にお見舞いに行き、退院後の相談ができるように努めています。また、グループホーム側からの記録や内服薬などの情報提供を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居当初より、ご本人・ご家族と担当医師・職員と終末期のあり方を話し合い、方向性を共有しています。また、ご本人やご家族にとって最良の支援となるように、終末期をご家族と協力し、対応しています。	「人生の最終章にふさわしい生き方」を理念にうたってあるように、利用者が入居した時点から、マニュアルに沿ってターミナルケアについての共通理解を得るように努めている。家族会でも、担当医師と話し合い、本人の望む最期の迎え方を話し合っている。これまで多くの利用者を看取ってきている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを備え、年1回の救急手当の勉強会に参加し、職員全員が対応できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、同一法人施設全体の訓練とグループホームの夜間を想定した訓練を行っています。また、年2回の防災に関する勉強会を行っています。	5月の訓練では、夜間を想定した訓練を消防署の協力を得て、同一法人の夜勤者とも連携して行ってきた。9月の訓練では、消防署の指導の下、利用者を安全に避難できるように訓練してきている。消火器を使った消火訓練も年2回行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの得意としていることやできることを目標にして行い、役割を果たせるように支援しています。職員と一緒にいき、感謝の言葉を伝えています。また、目線を合わせ、プライバシーに配慮した言葉かけに努めています。	利用者一人ひとりについて、家事仕事、趣味、野菜作りなどの得意分野を把握して、役割感を持ってできるように支援している。いつも感謝の言葉を伝えている。また、誇りやプライバシーに配慮し、場所を変えて話をするようにしている。人格の尊重や尊厳の保持、プライバシー保護についての勉強会も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を共感を持って傾聴し、それらが家事仕事や歌、趣味の作品作りなどとして、日々の生活の中で実現できるように働きかけています。皆で音楽会や行事に向けた練習に張り切っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、ご本人に合わせた暮らしを支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝のお化粧品や整容の習慣、2ヶ月に一度の散髪の支援をしています。お化粧品やマニキュアを塗り、外出したり、行事に参加したりしています。季節に応じた衣服の着替えも支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一回の食事作りでは、ご利用者と職員が、一緒に食材を切ったり、準備をしたりしています。また、おやつ作りでは懐かしいお饅頭を作っています。食後やおやつ後の片づけ、洗い物を一緒に行っています。	食事は業者委託になっているが、調理パッドからのおかずやみそ汁の配膳、ご飯の盛り付け等を職員と一緒にしている。また、後片づけも進んで行っている。月に一回の食事作りや季節ごとのおやつ作りでは、利用者の希望する献立を採り上げ、職員と食材を買い出しに行き、一緒になって作り、楽しく会食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量や水分量を表に記入して、一人ひとりの体調を把握しています。食欲が無い時は、ご家族に協力していただいて、ご本人の嗜好に合わせた食材を用意しています。栄養補助食品などを提供し、体力維持ができるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、自分でできる方には声かけを行い、支援が必要な方には職員が付き添い、ケアをしています。入れ歯は錠剤で洗浄しています。月に1~2回の歯科医の往診や歯科衛生士によるケアがあり、充実しています。		

グループホーム あずさ小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、利用者の排泄パターンを把握し、時間で声かけを行い、自立に向けた支援を行っています。座位ができる方は、トイレに行き、二人介助で排泄支援を行っています。	一人ひとりの残存能力に応じた排泄のスタイルを把握し、自立し排泄できる利用者、排泄時の見守りや声かけが必要な利用者など、運動機能やコミュニケーション機能の有無に応じて、自立に向けた支援を行っている。日中はオムツを使用せず、利用者の排泄パターンや習慣を見て、トイレで排泄するように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂ったり、利用者個人によっては、毎日牛乳やヨーグルトを飲んだりしています。また、毎日の体操や活動などなるべく体を動かすことによって、便秘の予防に役立てています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2回、実施しています。ご利用者の身体状態に応じて一般浴か特浴にし、そして、自分のペースでゆっくり入浴できるように支援しています。入浴ができない時は、ご本人のタイミングに合わせ、いつでも入浴できるようにしています。	週2回の入浴で、利用者の体調など入浴ができない時や入りたくない時もあるので、本人の希望に添った支援をしている。同一法人内の施設での特浴を利用し、支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は散歩や活動を行い、夜に安眠していただけるようにしています。ご利用者の体調によって、時間に関係なくいつでも休息が取れるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の服薬の状況を記録に残していません。担当医師の指示の下、ご利用者の担当職員からの説明を受け、職員全員で共通理解をして、服薬のマニュアルに沿った支援をしています。服薬の変更時には症状の変化を記録し、担当医師と相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが、毎日の洗濯物たたみ、食器洗い、玄関掃除などの家事仕事を役割を持って分担して生活しています。また、趣味の編み物や縫い物の特技を活かした作品作りをしたり、歌やレクリエーション、散歩や買い物などを楽しんだりして、気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者の希望に添って、散歩や外食をしています。また、足りないものあれば、スーパーで買い物をするようにしています。春や秋の季節の外出後には、本人の希望する店で(回転ずしやファミリーレストラン)外食しています。ご本人、ご家族の希望で、生家を訪ねることもあります。	ご利用者が欲しいものがあれば、スーパーと一緒に買い物に行っている。帰宅願望のある利用者には、家族と話し合い、帰宅してもらうようにしている。春の花見や秋の紅葉での外出は、家族や地域のボランティアに参加してもらい、実施している。ご家族と協力して外出ができるように支援している。	

グループホーム あずさ小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の管理はグループホーム側で行っています。ご本人の希望に応じて小遣いをいつでも使用できるようにになっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により、常に電話をかけられます。お礼の手紙や電話での会話の支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は鍵はかけず、浴室は木を使用し、落ち着ける空間となっています。グループホーム内は、温度管理や、窓からの光や照明の調整を行っています。ダイニングキッチン、リビング、フリースペースなど、利用者がゆったり過ごせる共有空間を広くとっています。ベランダに出て、日光浴をしたり、おやつを食べたり、また、野菜作りをしたりすることができます。	ダイニングキッチンでは、職員と家事などの作業をしたり、レクリエーションを楽しんだり、編み物や読書をしたりする利用者がいて、リビングではテレビを見たり、ソファで横になったりするなど、利用者は様々な様子でくつろいでいる。トイレに標示したり、温度管理や照明調節をしたりして、快適な空間になっている。ベランダに出て、暖かな日光やさわやかな風なども感じることで空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングキッチンでは、趣味の編み物や読書をしたり、懐かしい歌を合唱したり、家事をしたりして、皆さんが楽しく過ごしています。リビングでは、テレビを見たり、洗濯物をたたんだりしています。ソファやベッドで休んだりして、思い思いに過ごせるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご本人やご家族と相談していたきながら、家で使っていたお気に入りの服や馴染みの家具やラジオ・テレビ、また、家族の写真などを飾っていただき、心地よく過ごせるように工夫しています。	入居時に利用者や家族と相談し、今まで使用していた馴染みの家具やテレビ・ラジオを備えてもらったり、家族の写真や絵などを飾ってもらったりしている。また、慣れ親しんだ暮らしの中で、身についた動作や記憶に配慮し、心地よく過ごせるように配置についても工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	グループホーム内は安全に配慮し、見守りや声かけすることによって、お互いの意思疎通ができるようにしています。トイレや居室は分かりやすい言葉で表示し、自立した生活が送れるようにしています。		